

ひとごと

他人事ではなく、自分事として

国公立の幼稚園・こども園は、日本全国で幼児期にふさわしい教育を実践し、子育ての支援や幼小の接続などにも力を発揮しています。そんな皆さんの仲間の園で、大変な状況が続いています。そして、それはいつ私たちの身に起こるかもしれません。

8月6日付の支援の呼び掛けを受け、全国の幼稚園・こども園で、PTAと連携して支援活動を進めていただいています。ただし、この活動を進める際には、ぜひ現地の実情をご理解いただいた上で、保護者や子どもたちにもその様子を説明していただき、少しでも自分事と感じていただければと思います。被災地から寄せられた情報をいくつかお知らせします。

被災した幼稚園・こども園の子どもたちが一日も早く心穏やかに生活できるよう、また、そのために尽力くださっている先生方、地域や保護者の皆さんを応援する力となるよう、皆さんや子どもたちの気持ちが届きますよう、祈るばかりです。

<園庭にある小屋にいたウサギの話>

岡山市立幼稚園での出来事です。

保護者の家も浸水で大変なのに、園で飼育しているウサギのことが気になり、胸近くまでつかりながらウサギを助けに来てくれた保護者がいたそうです。しかし、ウサギ小屋は施錠しており、ウサギを助け出すことはできなかったそうです。

しかし、そのウサギ小屋には、すのこが置かれていて、なんとウサギは、その泥水の上に浮いた。すのこの上で、じっとしていたとのことでした。

水が引いた後(すのこに乗ったまま下がったのでしょう)、ウサギは元気を取り戻したそうです。

<親子で作った大事なアルバム>

広島県の園では、若い先生が初めての卒園アルバムを作っていました。1学期分の写真やカットを親子で切り抜いて作ったばかりで、それが心配で大雨の中、園に向かおうとしたそうです。しかし、とても園には近付けない状況で、止む無く引き返しました。その様子を見かけた保護者の方が、後日、感謝しつつも、危ないからと叱ってくれたそうです。幸いその園は浸水を免れ、アルバムも無事だったそうです。

<義援金と支援金の違いについて>

義援金は、日本赤十字社やテレビ局などが集め、被災者に届くものです。

一方、支援金は、特定の機関や団体への届けられるもので、配分に関しても、支援団体に任せられ、復旧作業にも使うことができ、すぐに届けることができるのも支援金の特徴です。

今回の支援金は、国公幼と全幼Pが連携してお預かりし、被災した幼稚園・こども園のある県の園長会、PTA連絡協議会等とご相談の上、必要な幼稚園・こども園にお届けしたいと考えています。

<真備地区の幼稚園について>

倉敷市真備地区には、6つも公立幼稚園があります。そのうち3園は、1階が全て水没しました。絵本がふやけてしまい、本棚から抜き出せないという想像を絶する事態もあったそうです。どの園も被災後、臨時休業から夏期休業に入って、2学期からは、近隣の園を間借りして保育する園もあるそうです。

倉敷市立^{やた}箭田幼稚園…^{にま}二万幼稚園での保育。

倉敷市立^{かわべ}川辺幼稚園…^{その}園幼稚園での保育。

倉敷市立^{くれせ}呉妹幼稚園…自園での保育が可能。

<岡山県の園長会長からのメッセージ>

職員・保護者・親戚・友達・職場の人等、被害にあった方が多くおられます。災害直後から、できる方ができることを、できる園で無理のないように支援してきていますが、まだ十分とは言えない状況です。そのようなときに、全国の後押しがあることとても心強いです。よろしく願いいたします。

<愛媛県の園長会長からのメッセージ>

愛媛県では、地区内の他園から先生や保護者が、復旧のボランティアに行ったり、絵本や折り紙、画用紙などを集めて届けたりして、支援してくれています。皆さんからの声やお気持ちが心の支えになっています。ありがとうございます。